



利根中央病院だより

きらめき



第52号
2019年 夏号

発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

産婦人科診療体制のご紹介

安全・安心で心地よいお産を目指し、また、全ての女性が輝いていられるよう、産婦人科スタッフ一丸となって取り組んでいます。

<産科>

2015年9月の新病院移転後、2016年度は278件、2017年度は306件、2018年度は352件の分娩がありました。2019年度は利根沼田・吾妻地域で唯一の分娩取り扱い施設となり、さらにお産の数が増える見込みです。妊婦健診では赤ちゃんの大きさや向きにもよりますが4Dエコーも見る事ができ、赤ちゃんの様子をご家族にもわかりやすく人気です。

分娩室は3つあり、いずれも個室で、周囲に気兼ねなくパパやご家族みんなでママを支えていただけます。立ち会い出産もインフルエンザ流行期などを除けばとくに年齢や人数などの制限がありませんので、ママ以外に見守ってもらえる方がいればお子様の立ち会いも可能です。夜間でも帝王切開に対応できる医師体制をとっており、必要に応じ小児科や内科とも協力して診療しています。

また、産前はマタニティヨガや両親学級、産後はベビーマッサージクラスを用意しています。当院の助産師が主体となって行うプログラムですので、安心してご参加していただけます。



4Dエコー写真

産婦人科科長 鈴木 陽介



助産師は22人在籍しており、そのうち8人がアドバンス助産師の資格を持っています。外来・病棟一体となり、ひとりひとりに寄り添い、産前から産後まで、安全・安心で心地よいお産を目指しています。

<婦人科>

月経に関するトラブルや不妊の相談、骨粗鬆症の治療や更年期の相談など、女性に関わる幅広い範囲の診療を行っています。

子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）に対する予防接種は、定期接種の対象者（小学校6年生から高校1年生の女性）だけでなく、自費になりますが9歳以上であれば成人の方にも接種を行っています。

年間200件程度の手術を行っており、子宮筋腫や卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術や子宮脱に対する腔式手術の他、悪性腫瘍（がん）に対する手術や抗がん剤治療も行っています。

「生理が多い」「痛みがある」「生理不順」「更年期障害なのか寝つきが悪い」「生理が上がったのに出血がある」「腔から何か触れる」「性行為痛がある」など、女性特有の悩みもあると思います。産婦人科は全ての女性のためにありますので、どんなお悩みでも気軽にご相談ください。



左より、鈴木、丸山、西出、糸賀

糖尿病チームによる院内の取り組みの紹介



5B病棟師長 金井ゆうこ

ます。日本糖尿病療養士を中心に、栄養士・薬剤師・検査技師・歯科・理学療法士から糖尿病の基礎知識や、日常生活の注意点などの内容を患者さん主体となって学んでもらいます。糖尿病は一生付き合っていかなければならない病気です。しかし、きちんとコントロールすれば一生同じ状態を保つことが出来ます。正しい知識を持ち、自己管理をし、よりよい生活が出来るようにチームでサポートしています。

入院で行う糖尿病教室について

2016年の厚生労働省の調査では、糖尿病患者と、その予備群は約1000万人いると推計しています。その中でも40代の働き盛りの方に未治療が多いという結果になっています。糖尿病は早期発見、早期治療と毎日の生活を見直すことが大切です。

5階B病棟では、第1、第3週の月曜日から金曜日までの5日間のメニューで糖尿病教室を行っています。



「歯周病のお話」の学習風景



「糖尿病とは」の学習風景

外来で行う糖尿病教室について

一般の方へ向けた糖尿病教室も、年4回組合員ルームで開催しています。糖尿病で治療している方だけでなく、糖尿病に関心がある方など、どなたでも気軽に参加していただける教室です。糖尿病ってどんな病気なのか、合併症や検査についてなどの一般的な知識から、食事療法や運動療法、薬物療法などの治療についても、専門スタッフが分かりやすくお話しします。第1回は6月8日に開催されました。

第2回は8月25日（日）の病院祭りに合わせて

開催を予定しています。眼科医師による「網膜症」についての講演があります。是非、ご参加ください。

〔糖尿病教室開催予定〕

- 第2回 8月25日（日）
- 第3回 11月16日（土）
- 第4回 2020年2月15日（土）
- *お気軽にご参加ください*
- 問い合わせ先：外来Aブロック



癌免疫療法について



薬剤師 武井 智史

現在、国民の2人に1人が癌にかかる時代となっています。癌の治療は外科的手術、従来の抗癌薬療法、放射線療法が基本的な治療とされています。こうした中、近年「癌免疫療法」が新たな治療の選択肢として注目を集めています。今回は簡単にではありますが、癌免疫療法についてお話させていただきます。

今回のお話をする上で最初に説明させていただきたいのが、「癌」と「免疫」の関係です。癌の発生は人間の遺伝子が何かしらの影響で傷ついてしまう、変異を起こしてしまう事で起こると考えられています。どんなに健康な人でも、癌細胞は1日に3000個以上発生しているとも言われています。しかし、全ての人が癌を発症するわけではありません。人間には癌細胞が発生しても癌が発症しないような仕組みがもともと備わっています。その中の一つとして免疫が癌細胞の排除に関与している事が分かっています。

前述したように、癌化した細胞を免疫細胞が排除することによって癌の発症を抑制していますが、中には免疫から見つからない仕組みや免疫の働きを抑制させるような仕組みを持った癌細胞が出来てしまうことがあります。こうして、徐々に免疫から逃れ、最終的に癌として発症してしまうメカニズムが考えられています。このように、研究で癌と免疫の関係が徐々に明らかになってきたことで、免疫を賦活したり、癌に対する感受性を高めたりと患者さん自身の免疫を使用した治療法が考えられました。このように自身の免疫を用いて治療する癌治療の総称が癌免疫療法です。

代表的な薬剤は「オプジーボ®」という薬剤です。世界で初めて保険収載された癌免疫療法薬で、昨年のノーベル賞を受賞された京都大学の本庶佑先生が開発に大きくご尽力された薬剤です。メディアでも大きく取り上げられたので覚えている方も多いと思います。また、最近では「キムリア」という薬剤も

よくニュースで見かけると思います。こちらは、1回の治療に約3350万円かかるといった値段の面で注目されました。この他にも数種類の薬剤が現在保険適応とされています。

「全ての癌に使えますか？」という質問をいただきますが、残念ながら全ての癌に保険適応で使えるわけではありません。薬剤によって適応の癌がそれぞれ異なっており、当院では一部の肺癌や胃癌に対してオプジーボ®やそれに類似した薬剤を使用しております。現在も数多くの臨床試験が実施されており、今後保険適応となる癌種は増えていくと思われます。

効果の面は癌腫や病態によって異なるので、一概に高い効果があるとは言えませんが数年間、癌の増大が抑えられている方もいらっしゃいます。

特徴的なのが副作用です。自身の免疫を駆使して治療するため従来の抗癌薬よりも副作用は少ないと報告されています。実際に嘔気・嘔吐や全身倦怠感など従来の抗癌薬に多くみられた副作用はほとんどありません。しかし、頻度は低いものの、発現すると重篤になってしまう副作用も報告されています。早期に副作用が発見できれば良いのですが、放っておくと命に関わる事もありますので、もし治療を受けている方で何かいつもと体の様子が違うという事がありましたら主治医に一声かけていただきますようお願い致します。(ここで話ししました副作用はキムリア®以外の薬剤に関しての事です。キムリア®に関しては頻度が高い副作用がありますので上記に当てはまらない事をご注意下さい)

癌と免疫の関係はまだ解明されていない部分も多く、現在使用されている薬剤も解明されている免疫の一部を応用したものです。今後もこの分野の研究が進み、新たな抗癌薬が増えてくるとおもいます。当院としても、新しい知識を入れながら、癌に苦しんでいる方のお手伝いをさせて頂ければと考えております。

医師会情報交換会を開催

5月24日に今年で9回目となる沼田利根医師会との情報交換会を開催し、25名の医師会の先生方のご参加をいただきました。



当院からは各科の医師より診療体制についてのご案内、研修医の紹介をさせていただきました。また、医師会の先生方からは日頃の患者紹介等に対する意見や研修医の先生方への温かい言葉などたくさんいただき、励みとなりました。

今後も良好な関係を保ちながら、当地域での医療完結を目指すための更なる連携強化を推進します。

新入職員歓迎会



5月17日、約160名の参加で盛大に新入職員歓迎会が行われました。参加された新入職員のあいさつでは『早く仕事を覚えて貢献したい』『尊敬する先輩のようになりたい』等初々しいかつ、頼もしいコメントがたくさんありました。

入社してまだ2ヶ月あまり。慣れない毎日で大変かと思いますが、飲んで食べて、少し英気を養えたかな?と思います。『共に頑張りましょう!!!』

きらめき トピックス

2019年度 スキルアップセミナー開催

5月25日・26日に利根中央病院スキルアップセミナーを開催しました。医師・研修医・医学生など1日目は61名、2日目は46名もの方々に参加いただき好評で幕を閉じました。

今年は『感染症』にフォーカスをあて、3名の講師からレクチャーをしていただきました。林俊誠先生からは「グラム染色レクチャー基礎編・応用編」をテーマに、グラム染色の重要性を説いていただきました。定期的に当院研修医教育へお越しいただいている坂本壮先生には「感染症VS救急」と題し、救急外来での感染症診療について顕微鏡でグラム染色標本を観察しながら解説していただきました。2日目は、伊東直哉先生から前日の講義を踏まえて、グラム染色を生かした感染症診療の実際について講義いただきました。非常に中身の濃い2日間となりました。

スキルアップセミナーで記念撮影（利根中のTで、パシャリ）



顕微鏡でグラム染色標本を確認



有名講師のサイン会が盛況